

## 2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2022年 3月 22日
研究・研修課題名	大学病院機能向上に向けた医師クラークの運用に関する調査・研究
研究・研修組織名(所属)	医師クラーク室
研究・研修責任者名(所属)	田島 義証(消化器・総合外科学講座)
研究・研修実施者名(所属)	和田 智美(医師クラーク室、医療サービス課)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(当院臨床系常勤医師・研修医(医科・歯科)、医師クラークへのアンケート調査の実施)
該当者名(所属)	
学会名(会期・場所)、認定名等	
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

**目的及び方法、成果の内容****① 目的**

医師事務作業補助者は、病院勤務医の負担軽減および処遇の改善を図るために作られた職種であるが、病院にとって様々なプラスαの活用効果を生み出す職種としても注目されつつある。

本研究実施者(和田智美:当院医師クラーク)は、歯科口腔外科において医師の補助ニーズに対応し医師の時間創出につながる事務作業の補助を長年一貫して行ってきた。その実績より診療科内において大学病院が保持すべき機能(臨床・教育・研究・地域社会貢献)全ての維持と向上に直結する医師事務作業補助者の活用効果を見出し、定量的に実証した<sup>1)</sup>。

これまで当院では、医師・研修医全員を対象とした業務実態やニーズ等の調査を基にした医師クラークの運用は行われてこなかった。本研究において、今回初めて当院の臨床系常勤医師・研修医(医科・歯科)を対象としたアンケート調査を行い、医師クラークによる補助の必要度・補助ニーズ・最適な補助業務を明らかにすることとした。併せて、医師クラークの業務実態も調査して医師・研修医の補助ニーズと比較し、当院における医師クラークの効果的かつ適切な運用を探ることを目的とした。

本研究結果を参考にした医師クラークの運用が行われれば、当院全体の大学病院機能向上が期待できると考えた。

**② 方法**

医師・研修医側と医師クラーク側へアンケート用紙を配布して調査を行った。対象は2021年12月時点で当院に在籍する臨床系常勤医師・研修医(医科・歯科)そして医師クラークとし、アンケートの回答をもって調査に同意しているとみなした。

アンケートの回答から、以下の5つの項目を調査した。

**1. 医師の業務量に対する感じ方と業務量に対する負担感**

2017年に野原らが大学附属病院勤務医師の業務負荷および業務改善に関する認識の調査で使用

したアクションチェックリスト<sup>2)</sup>を改編し、医師クラークが介入可能な業務分類である「医療の質に資する事務作業」を加えた新たなチェックリストを作成した。

回答は、主たる所属診療科・診療施設において一人一回の回答を求めた。

回答項目はスコア化し、特に医師クラークが介入可能である業務項目について、業務項目全体におけるスコアの割合を調査した。

## 2. 医師事務作業補助業務の需要

あらかじめ全医師クラークから聴取した従事業務に加え、当院が補助を許可している業務を補足した全 62 業務項目を列挙し、それぞれ補助の有無と 5 段階での補助必要度を問うた。

なお、主たる所属診療科・診療施設の他に従たる科・施設でも働いている医師には、それぞれでの回答を求めた。

回答をスコア化して医師クラークによる補助業務の需要を調査し、62 業務項目の全合計に占める特定の業務項目のスコア比を需要指数と定義した。

## 3. 大学病院機能の維持・向上に必要な業務を行う時間を奪っている事務業務

特に医師クラークの介入を必要とする業務項目を判断するために、特殊な役割と機能を持つ大学病院で働く医師としてその担うべき業務の時間を奪っている事務作業が何の業務であるか、62 業務項目内でのワースト 5 を問うた。

なお、主たる所属診療科・診療施設の他に従たる科・施設でも働いている医師には、それぞれでの回答を求めた。

## 4. 医師事務作業補助業務の供給

医師クラーク側アンケートにおいて、4 週間（月曜日～金曜日）の期間内に行った 62 業務項目内の業務について、それぞれの業務の供給時間を 5 分単位で大まかに問うた。

総供給時間の合計に占める特定の業務項目の医師一人あたりの提供時間の比を、医師一人あたりの供給指数と定義した。

## 5. 需要と供給のバランス

医師側の需要と医師クラーク側の供給を指数化し、その連続変数同士について相関分析を行い相関係数を求め、需要と供給のバランスを比較した。

調査結果の分析・解析を行い、当院における大学病院機能向上に向けた医師クラークの運用を検討する。

## ③ 成 果

医師側ならびに医師クラーク側へアンケート調査を実施した。

■ 医師側アンケート	配布日	2021 年 12 月 8 日
	回答期間	2021 年 12 月 13 日～12 月 26 日
	回収〆切日	2021 年 12 月 28 日
■ 医師クラーク側アンケート	配布日	2021 年 11 月 26 日
	回答期間	2021 年 11 月 29 日～12 月 24 日 (4 週間・月～金記載)
	回収日	2021 年 12 月 28 日

医師側からは 507 名中 332 名の回答を回収した（回収率：65.48%）。2022 年 2 月にデータ登録を済ませており、現在結果を分析・解析中である。今後はその結果をもとに当院での医師クラークを投入すべき領域や業務を明らかにし、最適な運用について検討を行う。検討後は、当院ならびに各診療科・診療施設に対する報告書を作成する予定としており、引き続き作業を進めていく。

また、本調査研究は全国の大学病院が医師事務作業補助者の運用を検討していく上で非常に有用な手法と情報を含んだものとなっている。それらは当院のみに留めるのではなく、全国の大学病院が医師事務作業補助者の活用というアプローチから医学・歯学・医療の進歩発展に向けて一丸となって取り組んでいく中での一助となれるよう論文化する考えである。当院からいち早く全国に向けて発信できるよう論文作成を進めていく。

文献

1. 和田智美, 管野貴浩, 関根浄治: 大学病院における医師事務作業補助者とは～当科 DC の活用効果に関する定量的検討により明らかとなったこと～. *Medical Secretary*15(2) : 9-16, 2018
2. 野原理子, 小池美菜子, 竹内正樹, 新井田達雄: 大学附属病院勤務医師の業務負荷および業務改善に関する認識. *東女医大誌* 89(4) : 89-96, 2019